

「あいあいの森」に「緑のドーム」が復活

園庭の樹木はなお400本

昨年10月、「あいあいの森」などの樹木の散髪(剪定)を大々的に行った。それから1年、「あいあいの森」や「桑の森」の樹木たちは枝を伸ばし、緑の葉をいっぱい増やしてきた。こんもりと復活した「緑のドーム」に入ると、ところどころに木漏れ陽が漏れる自然の森を実感できる。開園当初の数年間に植樹された樹木は約400本。その後、枯れた木がある一方で新たに植樹された木もあり、今もほぼ同じ数の樹木が園庭に緑の潤いを振りまいている。

あいあいの園庭に育つ樹木たち (2022年10月1日現在) (本)

べにかなめ	約200	紫式部	3	月桂樹	1	あんず	1
つつじ	12	金かん	2	ひいらぎ	1	れんぎょう	1
桜・しだれ桜	10	やまぼうし	2	はちす	1	竹	1
なんてん	10	ひゅうがみずき	2	木いちご	1	さるすべり	1
柿	9	とさみずき	2	ソテツ	1	かりん	1
ねずみもち	7	くちなし	2	もみ	1	しゅろ	1
さざんか	7	もくれん	2	ぼけ	1	ザクロ	1
もみじ	7	ライラック	2	すもも	1	目薬の木	1
はなみずき	7	いちじく	2	ぐみ	1	かくれみの	1
桑	6	もも	3	ひめりんご	1	うめもどき	1
くろがねもち	6	ねむ	2	とべら	1	くぬぎ	1
ふよう	6	りんご	2	あおき	1	どんぐり	1
金もくせい	5	マロニエ	2	くす	1	やつで	1
雪やなぎ	5	びわ	2	けやき	1	かし	1
みかん	5	うめ	2	やまぶき	1	ヒマラヤ桜	1
つばき	4	おうぜんかずら	数本	チンパピン	1	もちの木	1
なし	4	マスカット	1	あじさい	1		
ふじ	3	まんりょう	1	しゃくなげ	1		
まさき	3	せんりょう	1	バラ	1	樹木の種類	77
えのき	3	白丁木	1	こぶし	1	樹木の総数	398

樹木は光合成を通じて、二酸化炭素を吸収し、逆に新鮮な酸素を供給する。花を咲かせ、実をつけるものも多い。人々の心を潤す。紫外線をカットし、子どもたちを皮膚ガンから守る。そういった効果を求めて、2001年の開園から今日まで、園庭づくりを進めてきた。

初代園長の実弟・小保方利治さんの尽力は不可欠のものだった。「あいあいの森」の生い立ちは、「からはし通信」No.30(2021.10.7発行)に詳報している。HPで閲覧可能。

最近、樹木に名札を付け直した。正確を期したが「名前が間違っている」との指摘もある。あいうの庭に育ついくつかの樹木の現状をお知らせしたい。

がんばれ！ あいうの樹木たち

マロニエが 絶滅の危機 に

ハナミズキ あいうを代表する花である。南側のフェンスに沿って赤花と白花が各5本あったが、今は7本に減った。樹木どうしの生存競争(日光の取り合い)に負けたのかも。しっかり守りたい。

マロニエ 日本名は「とちの木」。実がとち餅になるというのが一度も食べたことはない。当初は8本あったが今は2本に。うち1本が半枯れの状態にあり、このままでは**絶滅の危機**に。

ヒマラヤ桜 その名の通り、寒冷地を好む桜なのか、12月から1月にかけて花を咲かせる。あいう畑の脇に植えた1本が大きく育って、「あいう畑」の野菜の成長を脅かすほどになったが、なぜか数年前、枯れてしまった。あと1本が表門の近くに辛うじて生きている。 **がんばれ！**

のうぜんかずら 表門近くにあるコンクリート電柱に数本が張り付いて空へ上へと伸びる。電柱を大きく包んで、巨大なツリーのように見える。秋にはオレンジ色の花を咲かせる。

くす 当園最大の樹木。太く大きい。樹齢は40年以上か。市営住宅の当時の住人が植えたものらしい。園舎建設工事の際、かろうじて伐採を免れ、「あいうの森」の王となった。

桑(くわ) 養蚕が盛んな頃は多くの農家の畑にあった。今や桑畑はどこにもない。桑の木はすごい生命力がある。育ちが早い。「おカイコさん」に大量の桑の葉を食べさせる。15年ほど前、2本の桑の木をもらってきて、根を6本に裂いて植えたら全部育ち、「**桑の森**」を形成している。

もみじ 植樹したもののほか、隣の晴嵐幼稚園から種が飛来し、当園で育っているものもある。

けやき 植樹した覚えがないのに、種が運ばれてきたのかしばしば園庭で育つ。将来、**巨木化する恐れ**があるため、やむなく、小さいうちに抜き取っているが、1本だけ育っている。

べにかなめ 京阪電車と並行する県道は朝夕の交通が激しい。排ガスが気になった。緑のカーテンで遮りたい。そんな思いで200本を密植して、生け垣をつくらうと考えた。だが、なぜか成長が遅い。20年を経てもまだ1メートル余りの背丈。肥料が足りないのか、剪定が悪いのか。研究中。

短信

◎「からすうり」が実っています 初代園長は烏瓜(カラスウリ)が大好きだった。彼女の保育実践集は「からすうりが熟れる頃」の名で5111部出版された。その後園庭に烏瓜の根を何回も植えたが、なかなか根づかなかった。しかし、今年は私宅に、ピンポン玉ほどの実がたくさんついている。間もなく真っ赤な実になるだろう。(下)

◎2023年度新入園児の募集すすむ 来春4月入園児の受付が進んでいる。1号児(保護者が就労していなくても入園できる子ども)5名は10月4日、抽選で決まった。2・3号児は市役所で今月末まで受付中。当園は来春28名を受け入れ、125名の園児で保育する予定。



今年の実ったカラスウリ